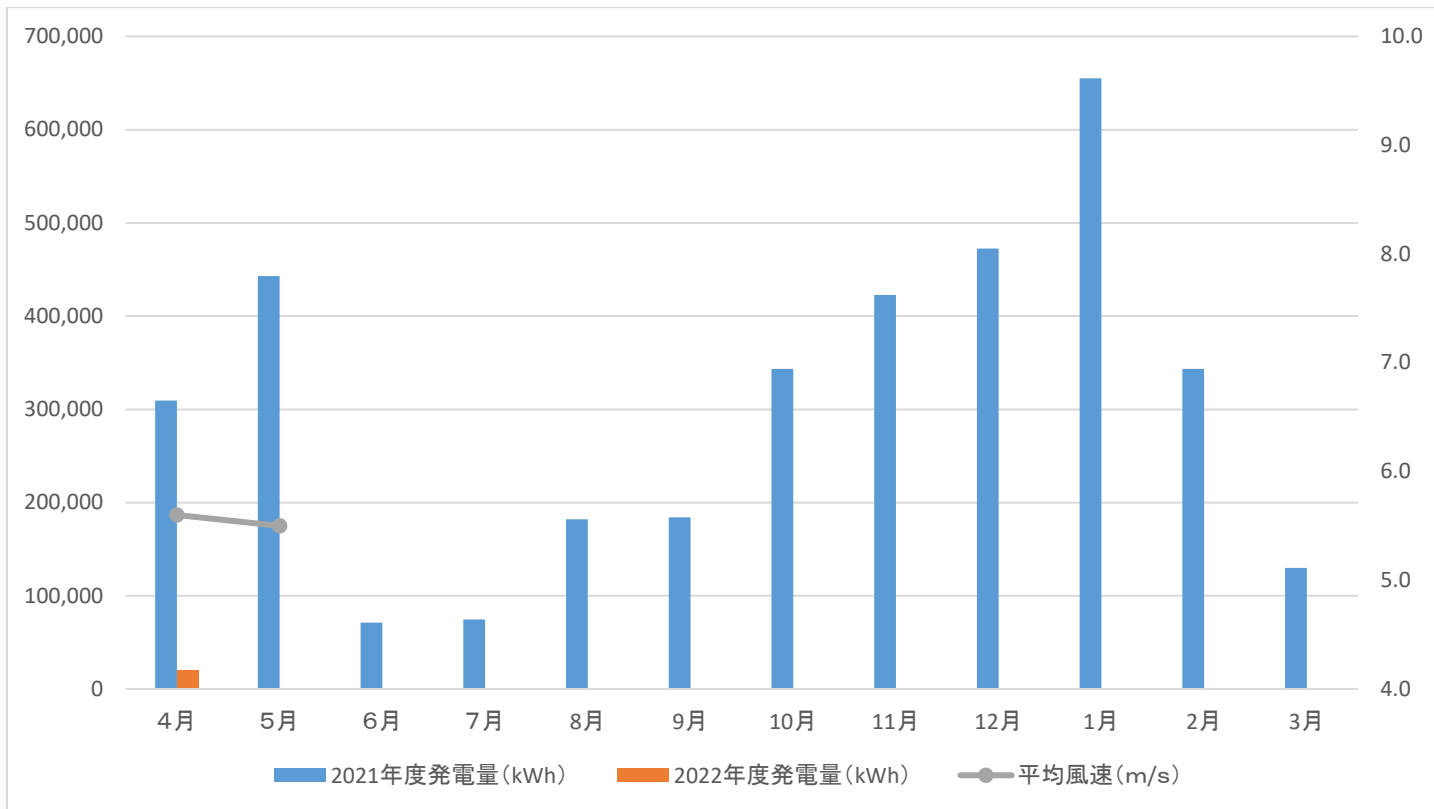


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 2022 年度発電実績



5月度運転状況について

○風況は前年同月と比べ0.3m/s 低い実績でした。
○4/7より保安停止。5/9より増速機の交換工事を実施しました。

第93回都市対抗野球本大会（7月18～29日、東京ドーム）への出場を決めた秋田県にかほ市のTDK野球部の佐藤康典監督（52）らが14日、同市と由利本荘市の市役所を訪れ、「（8年ぶりに初戦を突破した）昨年以上の成績を残したい」と活躍を誓った。

TDKは山形市で今月行われた東北大会に本県第1代表として出場、決勝で1点差の接戦を制して2年ぶりに優勝した。本大会への出場は3年連続17度目。

<6/15 秋田魁新報>

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	20,059	5.6	1.4
5月	0	5.5	0.5
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

グリーンファンド秋田社員総会開催報告

6月3日、一般社団法人グリーンファンド秋田の第14期定時社員総会を、ハイブリッド形式で開催しました。

社員代表は、生活クラブ東京の増田和美理事長、生活クラブ神奈川の篠崎みさ子理事長、生活クラブ埼玉の橋本陽子理事、生活クラブ千葉の福住洋美理事長、非営利活動法人北海道グリーンファンドの鈴木亨理事長、株式会社市民風力発電の奥原正好部長の6者、全社員の出席がありました。また、役員は、半澤彰浩代表理事、大石冬刀理事、須長雅和理事、山崎倫一理事、鈴木亨理事、奥原正好理事、滝本しのぶ監事が出席しました。

半澤代表理事を議長に、議事審議を行いました。

第1号議案、第14期(2021年度)事業活動報告では、年間発電量3,631,781kWhで計画比70.8%、新しい増速機の秋田港での落下事故により工事が延期されたこと、生活クラブとの連携を図った活動の報告などを提案し、滝本監事より監査報告を頂きました。

第2号議案第15期(2022年度)事業活動方針では、2022年度は夢風の稼働11年目となること、増速機交換工事を見込み420万kWhを発電目標とすること、修繕積立金の取り崩しと金融機関からの借入実施、生活クラブと連携を図った活動方針などを提案しました。「増速機の保険求償の確定は、工事終了後時間がかかることから、保険料は2022年度予算には計上していない」「にかほ市に於ける小中学校の出前事業について、働きかけを強めることやオンライン開催の検討も行ってほしい」などの質疑がありました。

以上、全ての議案は満場一致で承認され、社員総会は終了しました。

(株)秋田ニューバイオファーム視察報告

5月13日、秋田県由利本荘市西目にある(株)秋田ニューバイオファームの「きりたんぼ」工場を視察しました。生活クラブで取り組みをしている「きりたんぼ」は昨年度より原料米を芹田営農組合産に切り替えています。生活クラブからの参加者は、生活クラブ神奈川の半澤専務理事、生活クラブ東京の大石常勤理事、生活クラブ埼玉の須長専務理事、生活クラブ千葉の山崎常務理事です。秋田ニューバイオファームの清橋良太営業部課長、佐々木英也工場長にご対応いただきました。



佐々木工場長

「きりたんぼ」の製造工程は、米を研いでガス窯で炊き、捏ね器で七分づきにし、心棒に巻いて、コンベアの上を回転しながら火を通して焼き上げていきます。この焼きをじっくりと時間をかけて焼く事で、煮崩れしにくい「きりたんぼ」になるという事です。

「きりたんぼ」は鍋の需要のある秋から冬にかけて製造します。



工場の稼働していない春から夏の時期には、面積20,000㎡、世界のハーブ約250種類のハーブワールドAKITAとレストランを開いています。

夢風 増速機交換工事実施報告

新しい増速機が5月初めに秋田港に到着し、増速機の交換工事を、5/9～6/20に実施しました。

風車の建設や工事には、高所で重量物を扱える特殊な超大型クレーンを使用し、高所での作業となります。

工事の工程は、まず、風車サイトで大型クレーン2機を組み立てます。

はじめに、長さ40mのブレード(羽)3枚をハブから外して地上に降ろします。

続いて、地上80mにあるハブ(重量約20t)を抜き取り、地上に降ろします。

その後、ナセルにあるドライブトレインと呼ばれる増速機と主軸(重量約37t)を地上に降ろします。

地上で、増速機の交換を実施し、新しいドライブトレインを再度ナセルに吊り上げます。

ハブを吊り上げ取り付けます。

ハブにブレード3枚を取り付けます。

工事終了後に100時間連続運転を実施して安全を確認した後、本格再稼働となります。

今後も、夢風が順調に稼働し発電するよう、(株)市民風力発電と連携し、丁寧なメンテナンスを行っていきます。

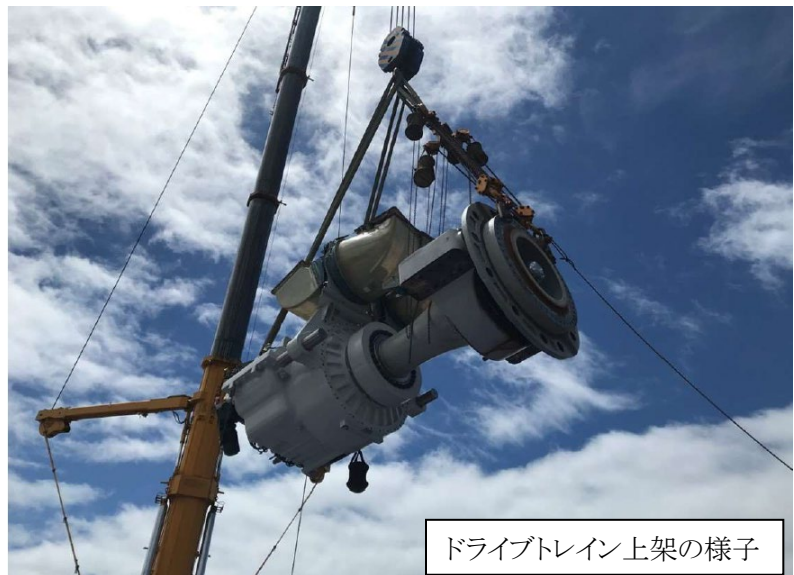
※ハブはブレード3枚を取り付けるハウジングとブレードのピッチを制御するピッチシステムで構成されています。

※ドライブトレイン(動力伝達部)は、ブレードの回転を主軸に伝え、増速機で回転数を上げて発電機に送る、主軸と増速機の部分です

※ナセル内に主軸、増速機、発電機があり、羽の回転を伝え発電をします。



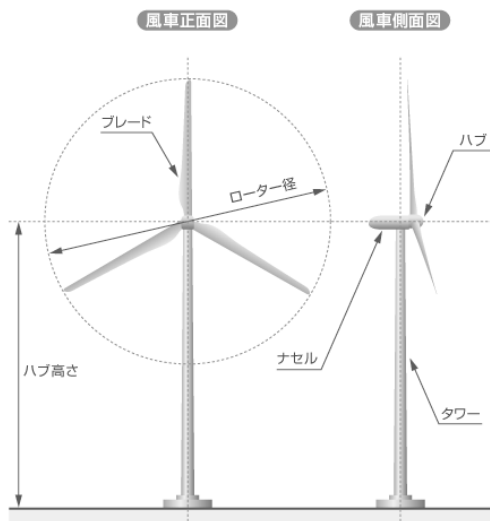
ハブ下架の様子



ドライブトレイン上架の様子



ブレードの上架の様子



コラム 「永続地帯 2021 年度版報告書」が6月に公表されました

千葉大学倉阪研究室と認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所は日本国内の市町村別の再生可能エネルギーの供給実態などを把握する「永続地帯」研究を進めています。「永続地帯」研究の最新結果では、2021 年 3 月末時点で稼働している再生可能エネルギー設備を把握し、その設備が年間にわたって稼働した場合のエネルギー供給量を推計しました(一部は実績値を採用)。

地域的エネルギー自給率の都道府県別ランクでは秋田県が前年度に続いて 1 位となりました。秋田県と大分県では、再生可能エネルギーの供給が域内の民生・農林水産用エネルギー需要の 50%を超えました。

秋田県の再生可能エネルギー供給比率は、風力発電が 39.4%、地熱発電が 19.9%、小水力発電が 14.9%、太陽光発電が 8.2%、バイオマス発電が 6.5%となっています。

秋田県の再生可能エネルギー自給率・供給密度・食料自給率の市区町村別では、にかほ市は、再生可能エネルギー自給率 216.5%と再生可能エネルギー供給密度 11.3 でともに県内 2 位となっています。

※再生可能エネルギー自給率とは、域内の再生可能エネルギー供給量の年間推計値を、域内の民生・農林水産用エネルギー需要で割った値です。

※再生可能エネルギー供給密度とは、域内の再生可能エネルギー供給量の年間推計値を、域内の面積で割った値です。

地域的エネルギー自給率ランク：

第 1 位	秋田県	51.3%
第 2 位	大分県	50.0%
第 3 位	鹿児島県	48.3%
第 4 位	宮崎県	46.1%
第 5 位	群馬県	39.5%
第 6 位	三重県	38.1%
第 7 位	高知県	36.0%
第 8 位	福島県	35.9%
第 9 位	岡山県	35.8%
第 10 位	栃木県	34.1%

秋田県 再生可能エネルギー自給率・供給密度・食料自給率市区町村別 top 10

再生可能エネルギー自給率			再生可能エネルギー供給密度			食料自給率		
順位	市区町村	自給率	順位	市区町村	供給密度	順位	市区町村	自給率
☆1	鹿角市	240.6%	1	湯上市	25.3	☆1	南秋田郡大湯村	6898.4%
☆2	にかほ市	216.5%	2	にかほ市	11.3	☆2	仙北郡美郷町	497.2%
☆3	湯上市	175.4%	3	男鹿市	8.5	☆3	山本郡三種町	464.5%
☆4	湯沢市	161.5%	4	鹿角市	6.6	☆4	南秋田郡井川町	413.5%
☆5	雄勝郡東成瀬村	147.8%	5	湯沢市	5.6	☆5	山本郡八峰町	369.8%
☆6	山本郡八峰町	145.5%	6	秋田市	5.3	☆6	大仙市	347.8%
☆7	山本郡三種町	144.3%	7	山本郡三種町	5.1	☆7	雄勝郡羽後町	339.3%
8	由利本荘市	94.6%	8	能代市	4.2	☆8	山本郡藤里町	285.8%
9	男鹿市	94.1%	9	由利本荘市	3.6	☆9	横手市	282.9%
10	仙北市	72.6%	10	山本郡八峰町	2.6	☆10	北秋田郡上小阿仁村	270.2%